

基本構想審議会委員の皆様のヒアリング内容より 骨子案への反映

※四角囲み箇所が委員の皆様から多くいただいたご意見。「■」が反映状況

自分らしくいられること、選択肢がたくさんあることが大切といったご意見

- 前文部分やサブタイトル、政策柱5を「自分らしさが大切にされる共生社会づくり」とするなど、全体を通じて「自分らしさ」を大事に。
※一方で「自分らしさ」は大切だが注意して使わないと少し危険、前提に情報や熟議が必要といったご意見も。政策柱6の中に情報や知に触れる機会について記載。

お互いを認められる、居場所があること、柔軟な働き方、多様性、人権尊重が大切などのご意見

- 前文部分で「お互いの自分らしさ」を大切にする考え方、政策柱5の中で「居場所がある共生社会」「誰もが活躍できる多様な働き方」「学び直しや再挑戦」「人権尊重」などについて記載。

子どもが最優先、ヤングケアラーなど困難を抱える子どもをみんなで支えるなど、子どもに関するご意見

- 全体を通じて大切にする視点に「子ども・子ども・子ども」を。また子どもに関する政策を、政策柱3や4に置いている。

子どもが色々な体験できること、体験的な学びが大事といった子どもの学びについてのご意見

- 全体を通じて大切にする視点に「子ども・子ども・子ども」を。また政策柱4の中で「生きる力を育む教育」について記載。

学校の先生が忙しすぎる、先生が笑顔でないと子どもは笑顔になれないといったご意見

- 政策柱4の中で「笑顔あふれる学校づくり」を記載。子どもだけでなく、子どもに関わる大人も笑顔になれることを意識した表現に。

コロナで文化的な活動の大事さがわかった、県民が文化芸術に触れる機会があることは大切だが必要不可欠なのはそれを支える機関や人、といった文化芸術についてのご意見、スポーツの「観る」の部分はかなり変化した、健康のための運動は何かのスポーツがうまいというのとは別、などスポーツ・運動のご意見

- 政策柱2の中の施策の展開で「文化芸術を楽しむ機会と環境づくり」「スポーツを楽しむ環境づくり」、また「生涯を通じた健康づくり」についても記載。

中小企業にとって人材育成は最大のテーマ、人手不足の問題が常にあるなど、人材確保・育成についてのご意見

- 全体を通じて大切にする視点に「ひとづくり」を。また政策柱2、5、6、9の中でもひとづくりに係る施策の展開を記載。

コロナ禍で企業として様々な見直しや新たな技術などを取り入れた、技術継承や事業承継しづらい状況はもったいない、観光業は競争激化するからこそ守っていかないといけないものがあるなど、産業に関するご意見

■政策柱 9 を「事業承継と次世代の産業の創出」、政策柱 10 を「コロナ禍からの経済回復と活力づくり」とし、その中で「担い手の育成・確保」「事業承継」や「社会・経済情勢の変化に対応した事業展開等の支援」「滋賀らしいツーリズム」などについても記載。

公共交通は組み合わせが大事、自家用車に頼る社会難しくなる、脱炭素社会で暮らせるまちづくり、公共交通はあるものを維持だけではなく人を呼び込むための重要なインフラ、道路整備・渋滞問題は切実といった、社会インフラや公共交通についてのご意見

■道路などのインフラについては政策柱 6、公共交通は政策柱 8 に。また政策柱 8 では「費用負担も含めた持続的な地域公共交通のあり方の検討」についても記載。

森・川・里・湖の繋がりが見えること、山にどういうふうに関わるかが大事、滋賀の環境の取組には期待、琵琶湖があるからこそ環境への意識が高いといったご意見

■政策柱 13 を「琵琶湖を守る・活かす」、政策柱 14 を「森林、農山村の多面的価値の継承（やまの健康 2.0）」としている。

エネルギーなどの地域循環ができれば、滋賀はそれができる素地があるといったご意見

■政策柱 12 を「環境負荷の低減と地域循環型社会の構築」としている。

コロナは大きな出来事だったがそこに振られすぎるのではなく、脱炭素への大きな切り替えといった大きな動きももっと前面に出るとよい、CO₂ ネットゼロの実現は全部局をあげて取り組まないと難しいなど、CO₂ ネットゼロについてのご意見

■CO₂ ネットゼロ社会の実現に向けてはあらゆる部局で取り組むものとして、政策の柱とは別建てで記載。

DX はあくまで手段、何を目的とするかが大事。コロナ禍で進んだ遠隔化などのよいところは残して活用していく、遠隔と対面の使い分けが大事になってくる

■あらゆる施策の基盤づくりとしての「DX 推進」を別建てで記載。あくまで手段であることを意識した表現に。

シビックプライドが大事、地域資源のすばらしさが滋賀の良さなど、地域の誇りについてのご意見

■総合目標の 1 つを「滋賀県に誇りを持っている人の割合 UP」としている。

基本構想に「幸せ」があるのはいいと思う。幸せを感じるメニューをたくさん出せるポテンシャルを滋賀県は持っているのでは、滋賀の幸せはとにかく「人のよさ」など、幸せについてのご意見

■総合目標の 1 つ、究極的に目指すものとして、「県民が感じている幸せの度合い」を設定。

KPI や目標は達成することが目的ではない、「A」でないといけないという呪縛に捉われている傾向があるのでは。経済の政策の KPI にも人権に関するものが必要ではないか

■政策目標については全面的に見直し。「どういう状態を目指すのか」を表すものを目標としておくことを検討。骨子案では総合目標の 3 つだけを記載しており、今後、総合目標の達成に影響する指標について検討していく。